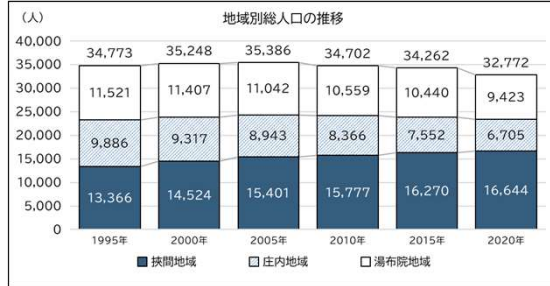


まち・ひと・しごと創生第3期由布市人口ビジョン【ダイジェスト版】

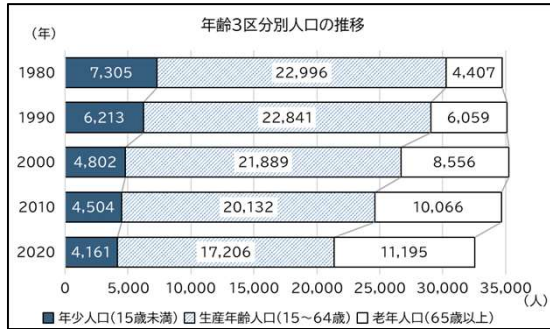
■ 由布市の人口の現状

- 由布市の人口は現在も減少傾向が続いており、今後も減少が続くことが推計されている。
- 地域別にみると挾間地域の人口は1995年から25%増加しているが、庄内地域は32%、湯布院地域は18%減少している。



■ 年齢3区分別人口の推移

- 1980年は7,305人だった年少人口は2020年には4,161人へ減少。
- 老年人口は1980年の4,407人から2020年は11,195人まで増加。



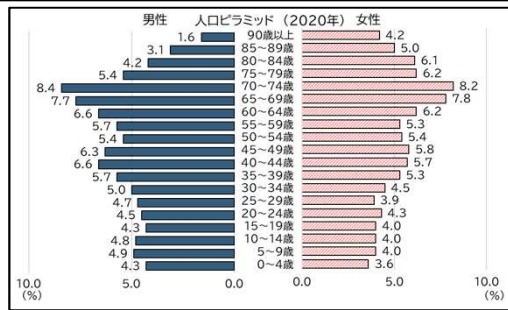
↓
急速に少子高齢化が進行している

出典：国勢調査

■ 人口ピラミッド

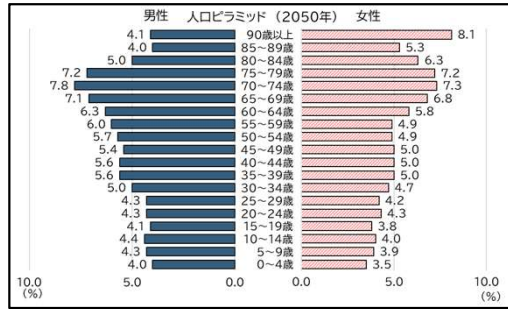
○ 2020年人口ピラミッド

- 第1次ベビーブーム世代とされる70歳前半の人口が高齢期に入ること、高齢化が進行している。
- 相対的に生産年齢人口や年少人口の割合が低下し、いわゆる「つば型」の人口ピラミッドとなっている。



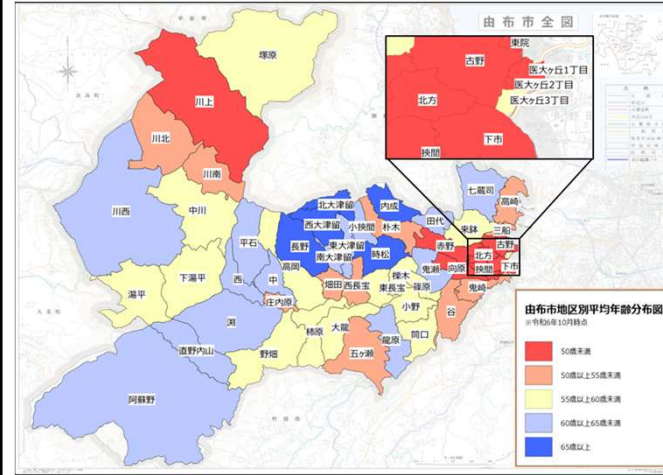
○ 2050年人口ピラミッド

- 2050年推計では第2次ベビーブーム世代が75歳以上となり、2020年と比べても高齢化がますます進むと推測される。
- 年少人口や生産年齢人口割合の減少は、地域社会の持続性に影響を及ぼす可能性がある。



出典：2020年は「令和2年国勢調査」、2050年は「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）」

■ 由布市の地区別平均年齢分布図



出典：由布市住民基本台帳（令和6年10月時点）

- 挾間地域や湯布院地域の一部については、50歳未満となっている。
- 庄内地域を中心に平均年齢が65歳以上となっている地区も存在する。
- 地域間での平均年齢の格差が大きいのことがわかる。

■ 人口の動き（自然動態・社会動態）



出典：住民基本台帳

- 自然動態は、出生数より死亡数が多い「自然減」の状態が長期間続いている。
- 出生数と死亡数の差が拡大しており、今後も自然減が進むことが見込まれる。
- 社会動態は転入超過の年と転出超過の年がそれぞれ見られるが、2021年以降は転入超過の傾向が見られる。
- これらの状況から、由布市の人口減少は自然減による影響が大きいのと言える。

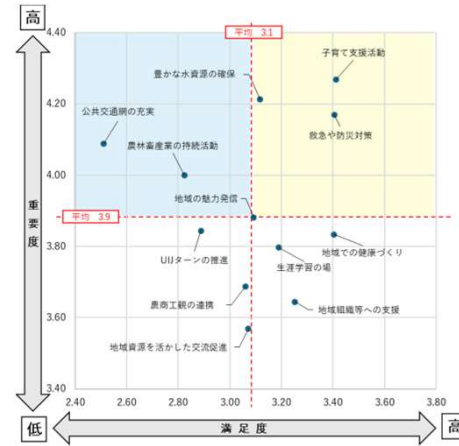
■将来展望の基礎となる市民意識調査散布グラフ

○重要度と満足度が共に高い分野

- 黄色のエリア（重要度が高く満足度も高い分野）は「子育て支援活動」や「豊かな水資源の確保」「救急や防災対策」。

○重要度は高いが満足度が低い分野

- 青色のエリアにある「公共交通網の充実」や「農林畜産業の持続活動」は、重要度が高いと認識されているものの満足度が低い。
- 市民生活を支える移動手段の確保や第1次産業の持続性に関する課題が認識されている。



■人口減少への取組の方向性（2つの方向性）

○人口動態と人口構造への働きかけ

出生者数の維持・向上と、人口移動の多くを占める若年層を中心とした転出抑制と転入促進対策を進めることが重要である。人口減少に歯止めをかけ、将来的に人口構造の改善につなげていくことが求められている。

○人口減少を前提とし、安心して快適に暮らし続けることができる社会の構築

今後も総人口や生産年齢人口の減少が見込まれる中で、人口減少を前提としながら、市民が安心して快適に暮らせる生活環境を確保し、持続可能な地域運営を実現していくことが必要である。



人口対策と地域づくりを一体的に進めていく必要性

■由布市の人口の現状分析等の総括

○人口減少の進行と人口構造の変化

由布市の人口は市制施行時から減少局面に転じ、出産年齢期人口の減少と老年人口の増加が同時に進行している。

○自然減の進行による人口減少の加速

死亡数が増加する一方、出生数は減少傾向にあり、差が拡大している。将来的に老年人口が減少に転じると見込まれ、人口減少がより顕著となると予想される。

○若年層の流出を中心とした社会動態の課題

近隣市町との人口移動では転入超過となっている一方で、都市部への転出超過が発生しており、社会動態全体としても人口減少に影響を与えている。

○地域間の人口動向の格差と地域構造の変化

挾間地域の一部では人口が増加傾向にあるものの、庄内地域や湯布院地域では減少が続いており、市内の人口動向の地域差が拡大している。

○人口減少が地域経済に及ぼす影響

生活関連サービス産業の比重が高く、人口減少がこれらの産業の持続性へ影響を及ぼす可能性がある。また、農林畜産業では担い手の高齢化が進んでいる。

○生活サービスと財政基盤への影響

生活関連サービスの維持には一定の人口規模が求められ、産業振興や人口確保を通じた税収基盤の強化を図る必要がある。

○地域コミュニティ機能維持への課題

人口減少と少子高齢化により、地域コミュニティ機能の維持が困難になるため、行政による支援に加え、地域住民や関係団体等が連携した取組が重要となる。

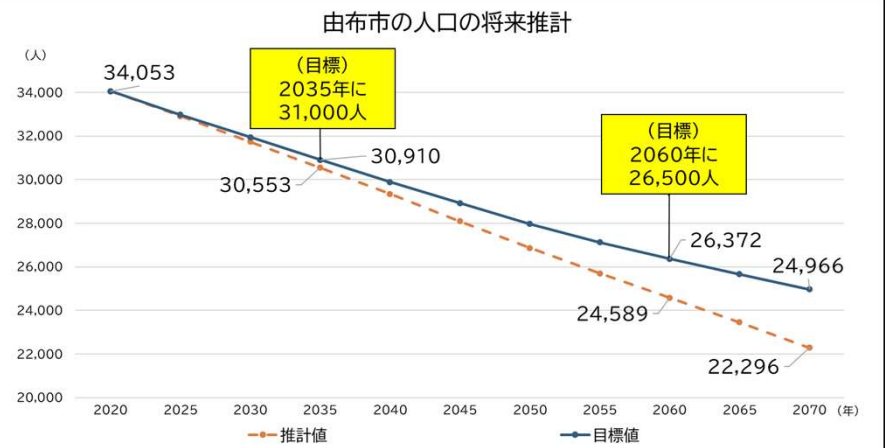
■由布市の人口の将来展望

由布市の人口展望は、2020年の合計特殊出生率1.52を、大分県の短期的目標である2033年に1.84程度、長期的な展望である2045年に2.07程度を基準に設定する。人口減少に歯止めをかけるため、子育て支援・出生率向上対策に関する施策展開を実施し、出生数を増加させ、年少人口の減少を抑制を図る。

また、転出者の抑制を図りつつ、転入者を増加させるため、雇用・労働・就業・継業施策や、移住・定住施策を図ることにより、転入促進と転出抑制につなげ、人口減少の進行の緩和を目指す。さらに、健康立市事業を推進し、健康寿命を延ばすことで、生産年齢人口を安定した人数で推移させ、老年人口の増加を抑制する。

以上の視点に立ち、2035年に31,000人、2060年に26,500人の確保を目指す。

令和42年（2060年）人口目標 26,500人



出典：2020年は「住民基本台帳（令和2年9月30日時点）」、
2025年以降は「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）」を基に由布市独自推計